

# 活動報告書

報告者氏名：知念 元喜 所属：西崎特別支援学校 記録日：2013年1月29日

## 【対象生徒の情報】

- ・ 学年  
高等部2年生（重複学級）
- ・ 障害名  
知的障害、声帯麻痺
- ・ 障害と困難
  - 気管切開によるカニューレを装着しているため、発声する事ができない。
  - 本人なりのジェスチャーや動きで自分の意思を表現しようとするが、そのジェスチャーを完全に理解しているのは母親しかいない。教師や初めての人には伝わらないジェスチャーも多く、イライラする場面がある。
  - 医療的ケアの必要な生徒であり、常に学校に母親が待機している。

## 【活動目的】

- ・ 当初のねらい  
本生徒は高校1年生の時から iPod touch の「Voice4U」や「Drop talk」というアプリを用いて、自分の意思を表現する事や朝の会・帰りの会の司会、授業開始や終わりの号令などを練習しており、一通りできるようになってきている。  
今回は、魔法のじゅうたんプロジェクトにより iPhone 4S を借りる事ができたので、その意図に従い、校外での使用を重視し、卒業後を意識しながら、家から近くのコンビニへの買い物、ファーストフード店での注文、お遣いなどを中心に実践し、そこで出た課題を学校との連携により解決していく事を目的とした。
- ・ 実施期間  
2012年4月～2013年3月
- ・ 実施者  
主：知念元喜 共同研究者：(学級担任、学級副担任、情報部職員)
- ・ 実施者と対象生徒との関係  
元担任

## 【活動内容と対象生徒の変化】

### ・対象生徒の事前の状況

対象生徒は気管切開を行い、カニューレを装着しているため発声する事ができない。また、医療的ケアを要する生徒で、タンのつまりの清掃やカニューレが外れたときのため、常時学校内に母親が待機している。そのため、学校活動においても、家庭での活動においてもいつも母親と一緒にいて、一人で行動する事はない。

言語活動においては本人なりのジェスチャーを使用し、簡単な意思表示や気持ちを伝える事ができる。(今日の天気は？ 次の授業は何？などはジェスチャーを用いて答える事ができる。)

しかし、昨日見た物や家庭で起きた事を伝えようとするなど、複雑な様子を伝えようとするときには、全く伝わらず、イライラする場面が見られた。

そこで昨年度より、誰にでも自分の気持ちが正確に伝わるように iPod touch による指導を取り入れ、「Voice4U」「Drop talk」などの使用により、簡単な意思を伝えられるようになり、朝の会・帰りの会の司会や号令、自己紹介などができるようになった。

生活面においては、太田ステージによる診断によると健常児のほぼ3歳～4歳。



図1 学級での様子

### ・活動の具体的内容

4月～6月

- 学校で使用していた iPod touch から今回の iPhone4 へのデータの移し替えと設定。
- 常時携帯し、コミュニケーションの向上。自分自身での充電の定着。
- 通話機能・メール昨日の練習 (イマカエル)
- カメラ機能の練習

7月～10月

- ファーストフード店までの一人での練習
  - ・ファーストフード店までのルート及安全確認 (一緒に～自分で来れるまで)
  - ・通話機能を使用して、家からの呼び出し (家のすぐ近くから徐々に遠くし目的地のファーストフード店まで)
- ファーストフード店での注文の練習
  - ・「Voice4U」「drop talk」を利用した注文練習
  - ① 自分の好きなセットを選択し、店員に伝える
  - ② セットの飲み物を選択し店員に伝える
  - ③ 支払い方法を伝える (EDY での支払い)
  - ④ 持ち帰りの注文



10月～1月

- コンビニエンスストアで自分の好きな物を購入する練習
- 家から一番近いスーパーへの買い物練習（お遣い）
  - ・スーパーまでのルートの確認
  - ・スーパーでの買い物練習
  - ・iPhone に入れてある商品（写真、お母さんが買ってほしいもの）をみながら同じ物を購入するお遣い練習

・対象生徒の事後の変化

- 通話機能について  
通話機能においては「○×スイッチ」を使用した。（図○）  
それにより、一方的ではあるが遠くにいても指示が通るようになった。  
例）先生：「もしもしー○○さん、聞こえますか」  
生徒：「○（ピンポーン） or ×（ブザー）」  
先生：「今○○にいるけど来れますか？」  
生徒：「○（ピンポーン） or ×（ブザー）」



- メール機能について  
アプリ「いまカエル！」を使用し、学校から出る事や、家に着いた事を母親に報告することができた。



- ファーストフード店での様子について
  - ・ファーストフード店から電話で呼び出し、一人で安全に注意しながら来る事ができるようになった。
  - ・自分が食べたいものを自分で選択し、店員の質問に答えながら注文できるようになった。
  - ・支払いに関しては iPhone の裏に貼ったシールタイプの Edy を使用する事により、スムーズに行う事ができるようになった。
  - ・持ち帰りの注文に関しても一人でできるようになった。



- コンビニエンスストアでの様子について  
コンビニエンスストアでは自分が好きな物を自分で選択し、iPhone についた Edy を使用してスムーズに支払う事ができるようになった。

- 家から一番近いスーパーでの買い物（お遣い）について  
家から一番近く、母親と一緒によく利用しているスーパーには Edy が設置されていなかった。しかし、将来の自立を見据え、iPhone に写してある写真を見ながら一人でお遣いにチャレンジした。初めはレジに並ぶお客さんの列に並ばず、一番前に行ったり、写真と違う商品を買ってきたり、お金の支払いなどに戸惑う場面も見られたが、学校との連携した練習を行い、何度も繰り返し買い物をする事により、最後には一人でできるようになった。



○母親の言葉より

「先生、この子はこの障害の為に、今まで私か家族と一緒にの時にしか外に出た事がありません。今は先生からの電話で、一人で外に出て行く事ができて非常にうれしく思います。」

学校だけでなく家から取り組む事により、将来を見据えた実践的な取り組みをする事ができ、活動の範囲が増えた。

また、お母さんの言葉からもわかるとおり、自分一人で外にでて活動できるという「自立」への第一歩を踏み出す事ができた。

### 【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

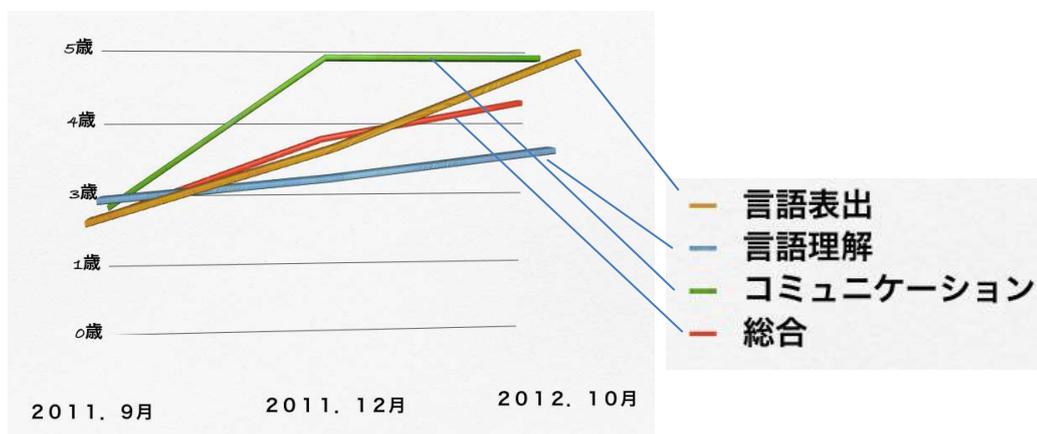
学校内ではなく、家庭から自立に関する取り組みを行う事により、より卒業後の生活に即した実践を行う事ができた。

また、初めは戸惑いもあった生徒も何度も繰り返し練習する事によって、徐々にやり方を覚え始め、前向きに取り組めるようになった。

・エビデンス

LC スケールによる評価（言語に関する評価）によると総合的に伸びていることがわかる。

※ iPod touch や iPhone が評価の伸びに大きく貢献したと推測できるが、学校の教育活動全体を通しての評価なので、iPod touch や iPhone のみで上がった評価ではない。



・その他エピソード

○学校外での活動においては、時間の問題、責任の問題、他の保護者への説明など多くの問題が出てきた。

○学校外で活動する事により、今までわからなかった事など見えてきた。

○特別支援学校の生徒においては、場合によって実践で出てくる多くの課題を「解決」するよりも、「回避」する方法を教えた方が良い事がわかった。

